

今日のキーワード 『街角景気』は小幅悪化も回復基調は継続

「景気ウォッチャー調査」、いわゆる『街角景気』とは、景気に敏感なタクシー運転手や小売店、メーカー、輸送業、広告代理店など、地域の景気の動きを敏感に観察できる立場にある約2,000人を対象とした調査です。9月の『街角景気』では、地震や台風の影響が懸念されましたが、前月比▲0.1ポイントの48.6と思いの外、底堅い結果となりました。内閣府は基調判断を「緩やかな回復基調が続いている」と据え置きました。

ポイント1

現状判断DIは前月比▲0.1ポイントの48.6 地震の影響から北海道が大幅に低下

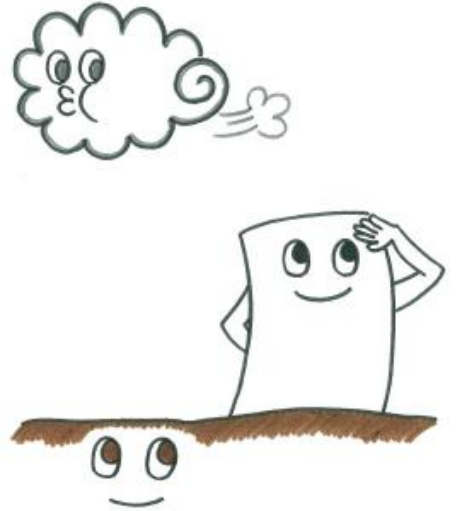
- 9月の『街角景気』によると、現状判断DIは前月比▲0.1ポイントの48.6（季節調整値）となりました。項目別では、サービス、住宅関連などの低下から家計動向関連や、製造業の低下から企業動向関連が悪化しました。一方、家計動向関連の小売関連や雇用関連は改善しました。
- 地域別にみると、北海道胆振東部地震による観光や農業への影響から北海道が▲11.6ポイントと大きく低下しました。反対に、東京が改善した南関東など全国12地域中の7地域で改善がみられました。

ポイント2

ウォッチャーのコメントを分析 災害やインバウンドに関するコメントが増加

- 街角の声をより客観的に分析する、当社独自のテキストマイニングによる分析手法（*）によると、ウォッチャーのコメントからは景気に引き続き慎重な姿勢がみられます。
- 9月については「地震」、「台風」といった自然災害に関わる用語の使用が大幅に増加する中で、不安に関わる用語の使用数が増加しました。このほか、インバウンドに関わる用語の使用数も増加しましたが、「災害」、「減少」、「ダメージ」、「キャンセル」などネガティブな用語に結び付けて使われるケースが多くなりました。

（*）テキスト（文書）をコンピュータで探索する技術の総称。典型的な方法として、テキストにおける単語の使用頻度を測定し、テキストの特徴を統計的に分析・可視化することで、背後にある有益な情報を探ることができます。



今後の展開

自然災害の復旧に伴う『街角景気』の回復に期待

- 先行き判断DIについても▲0.1ポイントの51.3となりました。景気判断の分岐点となる「50」を2カ月連続で上回り、市場の見方に比べて思いの外、底堅い結果となりました。内閣府の見方は「緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、コストの上昇、通商問題の動向等に対する懸念もある一方、災害からの復旧等への期待がみられる」としています。リスク要因はあるものの、今後は円安・株高基調に加え、自然災害の影響が徐々に小さくなっていくとみられ、景況感が上向いていくことが期待されます。

ここも チェック!

2018年10月 2日 『日銀短観』、大企業製造業が3期連続悪化
2018年 9月12日 天候要因の影響が続くと見られる『街角景気』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。